

株式会社加茂村ファーム
柴原 立子さん
➡ P6



有限会社ファーム山越
山越 正三さん
➡ P5



いちはら里山ファーム
山﨑 敬行さん
➡ P4

農業のミライをつくる

問合先　農林業振興課☎(36)4187

私たちの食を支える『農業』。

市原市では、米をはじめ、畜産、野菜、果樹など多種多様な農産物が生産され、それが市の大きな魅力である里山の景観も生み出しています。また、地元の農産物を購入する「地産地消」は、身近なSDGsの取り組みとして改めて注目されています。

しかし、市内の農家数はこの10年間で約4割も減少し、平均年齢は71・3歳と高齢化が進み、担い手不足や耕作放棄地の増加、野生獣による農作物被害など多くの課題を抱えています。

一方で、後継者として就農し、希望を胸に、ふるさとで農業を営む若者や、「農業を仕事にしたい」と以前の仕事を辞め、市内で挑戦している若者がいます。

今月号では、市内で活躍する若手農業者の姿を通して、農業の魅力ややりがい、市原市の農業を未来へつなぐヒントを探します。



＼農業を選んで生きていく／



稼業を継いだり、それまで農業とは無縁だったけれど、農業者から刺激を受けて就農を決意したりと、数ある職業の中から農業を仕事に選ぶ理由はさまざまです。

就農を決意した若者たちは、なぜ農業を選び、農業の未来についてどのように感じているのでしょうか。今回は、農業に可能性を感じ、職業として選択した若き農業者たちにお話を聞きました。

消費者の喜ぶ声を胸に

いちはら里山ファーム　山﨑（やまさき）敬行（たかゆき）さん





1

極力農薬を減らした自然な農法にこだわり、イチゴ狩りをはじめとした農業体験、加工販売にも取り組む『いちはら里山ファーム』の2代目である山﨑さん。若くして脱サラし、専業農家となった父の毅彦（たけひこ）さんの後を継ぐべく、少年時代に農業の道へ進むことを決めました。

「本当に楽しそうに農業に関わる両親の姿がとても魅力的で。子どもの頃、直売の手伝いをするのがうれしかったことをよく覚えています」と山﨑さん。地元の中学校を卒業後、三重県にある農業高等学校へ進学して有機栽培を一から学び、卒業後は千葉大学園芸学部でさらに農業の知識を深めながら、週末は実家で農作業にいそしみました。

台風の被害や新型コロナウイルスの影響など、大きな困難に直面することもありますが、「農業にはそれを超える楽しさがある」とのこと。今後の展望は、「なるべく近い場所で売りたいと、最近は強く思います。輸送コストの削減にもなりますし、生産から販売まで一本化して、お客さんの心がじかに届くっていうのが、一番のやりがいだと感じているので。季節ごとに目玉となるものを作りたいです」と笑顔で語ってくれました。

里山ファーム直売所
所在地 馬立1169
問合先 ☎(26)7473
営業時間 午前9時～午後5時
定休日 火曜日・水曜日
もっと知りたい人は里山ファームのウェブサイトをチェック





2　3

1 敬行さん家族。左上から彩美（あやみ）さん、弘毅（こうき）くん、美月（みつき）ちゃん、利明（としあき）くん
2 3 直売所には新鮮な野菜や果物、食品添加物不使用の加工品が並ぶ

産地としての歴史をつなぐ

有限会社ファーム山越　山越（やまこし）正三（まさみ）さん





1

梨の産地として長い歴史を持つ廿五里（ついへいじ）の下川原地区は、戦前からのイチゴ産地の顔も持ちます。そこで梨とイチゴの歴史をつなぐ若き担い手が山越さん。奥様のお父さんが社長を務める『有限会社ファーム山越』の後継者として、30歳のときに造園の仕事を辞めて就農しました。

造園の仕事をしていた時から、繁忙期には農作業の手伝いをしており、就農するにあたってのギャップはあまりなかったそうです。しかし、「常に天候に左右される仕事なので、そこは本当に大変だなって感じますね」と、令和元年の台風によりビニールハウスが倒壊して苦労したことを話してくれました。

逆に、農業の魅力については、「お客さんがおいしいって言ってくれるのは、やっぱり一番うれしいですね。あとは、農業は、手間を掛けたかどうかが結果で返ってくることが多いと思います。そこはすごく面白いですね」と笑顔で話す山越さん。

まわりで農業を辞めてしまう人も多いとのことですが、「楽しいこともたくさんあり、やりがいのある仕事だと思うので、私が後を継いだ後も、現状を維持していけるよう頑張ります」と決意のほどを語ってくれました。

山越農園直売所
所在地 廿五里389
問合先 ☎(23)1334
営業日時（イチゴの時期） 水曜日・金曜日・日曜日、午前8時30分～11時頃
※梨の時期は営業日時が変わります。



2



提供：国分寺台小学校

3

1 自宅近くのイチゴのビニールハウスにて　2 農作業の合間に箱詰め作業
3 小学校の校外学習の様子。「梨やさんの仕事」の学習を通して農業を伝える

市内の観光農園や農産物直売所をご紹介!

観光農園

市内には、イチゴ狩り、みかん狩りなどが楽しめる観光農園があります。自分で収穫した新鮮な農産物は、おいしさもまたひとしおです♪市ウェブサイト（右のQRコードからアクセス可）にて市内の観光農園を紹介していますので、ぜひ一度ご覧ください。

農産物直売所



市内の農産物直売所などの情報を掲載した『市原市地産地消マップ』を刊行しています。道の駅あずの里いちはらや五井駅前観光案内所、農業センター（安須980）などで配布しているほか、市ウェブサイト（右のQRコードからアクセス可）からダウンロードできます。

持続可能な農業のかたちを求めて

株式会社加茂村ファーム　取締役　柴原（しばはら）立子（りつこ）さん

研究開発や広報の仕事をしていた化学メーカーを退職し、農産物の営業職に転職。作物を売るだけでなく、農業を極めるためその会社も辞め、２０１５年から就農している柴原さん。

「始めて５年目、一人でやることに限界も感じていたころに、市原市で養豚会社を営む北見さんから一緒に法人をつくってやらないかって声を掛けてもらって、そこに可能性を感じたので、じゃあやりましょう！ってなりました」

北見さんの考える〝持続可能な経営のかたち〟に共感し、世代を超えて農業をつないでいくことを実現するために、昨年農業法人『株式会社加茂村ファーム』の設立に踏み切りました。

「血縁がなくても農業を次の世代につなぎ、土地の利用を長く続けていく意味の持続可能もあるし、豚（とん）ぷん堆肥を畑に利用することで環境的な持続可能もあるし、いろんな意味で持続可能な経営を目指して法人をつくりました。私はＳＤＧｓとか考えたことはありませんでしたが、いま振り返ると、そういうことを目指しているんだと思います」と語る柴原さんの目指す、これからの新しい農業のかたちに注目です。



1

焼きいも屋 RITZ FARM
（加茂村ファームの直売所）
所在地 田淵旧日竹114
問合先 ☎090（1858）5159
営業日時 土曜日・日曜日・祝日、午前10時～午後4時

Facebookで最新情報をチェック


2


3

1 2 田淵旧日竹にある直売所では、その日にとれた作物のほか、焼き芋などを販売　3 所有している畑の様子（夏頃に撮影）。

新規就農者インタビュー



株式会社加茂村ファーム
生石（おいし）倫也（ともや）さん

就農の動機や農業の魅力を聞きました！ 売り手から作り手へチャレンジ!

前職の八百屋で働いていた時に、柴原さんの畑で野菜を育てる機会があり、その縁もあって「一緒に働かないか」って声を掛けてもらいました。ちょうど、将来的にずっと八百屋で働くか悩んでいた時で、「売り手ではなく作り手にチャレンジしてみたい!」という思いで、昨年就農することを決めて、東京から引っ越してきました。

農業大学校で学んだばかりで、まだまだ農業の世界ではやっとスタートラインに立った段階ですが、大変さより、自分で育てた野菜を食べた時の感動の方が大きく「これは、はまるな」と感じました（笑）。農業ってすごく達成感を感じられる職業だと思います。

就農までのみちすじ



農業は思い立ってすぐに始められるものではなく、十分な準備が必要です。
「農業を始めたい」と思ったら、就農相談や情報収集から始めましょう。
ここでは就農までの一般的な流れをご紹介します。



Step 1 相談と情報収集をしよう

あなたのしてみたい農業はどのようなものでしょうか。農業に関する基本的な知識を収集したり、知り合いの農家がいれば経験談を聞いてみるのも良いでしょう。

Step 2 体験をしよう

頭の中のイメージと現実のギャップは予想以上に大きいです。農作業を実際に体験し、自分に合っているのか見極めることが大切です。

Step 3 農業技術を学ぼう

農業経営を開始するためには、ある程度の農業技術を身に付けておく必要があります。やりたい農業のイメージができたら、先進農家や農業法人での研修、農業大学校などで技術や経営ノウハウを身に付けましょう。

Step 4 就農計画を作ろう

経営目標を明確にしましょう。農業といってもさまざまな品目があり、それぞれ経営のやり方が異なります。また、就農地はどこにするか、農地は購入か借地かも検討が必要です。

Step 5 リスクを考えよう

農業を始めるには多額の資金が必要です。農業で生活が軌道に乗るまでには数年かかることもあり、収入が不安定な期間が続いた場合のリスクに備え、その間の生活費をどのように確保するか考慮した上で決断をすることが大切です。

Step 6 就農準備をしよう

農地や施設、機械や資金の準備はもちろん、始める場所によっては住まいの確保が必要な場合もあります。また、就農して生活するにあたり、行事などに参加して地域慣習に慣れ、地域の一員になることをおすすめします。

Pick Up!

新規就農の主な相談窓口
- 市農林業振興課 ☎（36）4187
- 千葉農業事務所企画振興課 ☎043（300）1985



Pick Up!

県立農業大学校
就農したい！スキルアップしたい！という人は県立農業大学校の講座・研修もおすすめです。

- **就農準備講座**
  将来、県内で農業に取り組もうとしている人が、基礎的な農業知識の習得と農作業を体験する農業初心者向けの講座
- **農業者養成研修**
  本格的な就農を目指す人のために平日に開催する長期研修で、農場実習は施設野菜・露地野菜・花きをローテーションで実施

応募方法など詳しくは、県ウェブサイト（右のQRコードからアクセス可）をご覧ください。

Pick Up!

今月号の8ページ下段に**帰農塾生「梨ボランティアコース」**の募集案内を掲載しています。

Pick Up!

就農計画のポイント
- どの品目で始めるか
- どこで就農するのか
- 栽培方法はどうするか（露地・ハウスなど）
- 経営タイプはどうするか（単一作物・複数作物複合経営）
- どのくらいの規模で開始するか
- 販売・所得の目標はどうするか
- 上記を達成するために必要な技術・機械・施設・資金はどのくらいか

Pick Up!

農地の取得についての相談窓口
- 市農業委員会事務局 ☎（23）9837

＼新規参入者向けに期待／

イチジクの新栽培法の実証試験

千葉大学との連携による実証試験

本市では、千葉大学との包括連携協定を結び、さまざまな分野で連携事業を実施しています。市農業センターでは、千葉大学園芸学部と連携し、イチジクの新たな栽培法について実証試験を行っています。

市原市のイチジク

市原は明治時代からの歴史ある産地ですが、ここ数年、連作障害など土壌に起因する生育障害に悩まされています。この課題を解決するため、千葉大学園芸学部の大川先生を招き、先生が開発したイチジクの養液栽培システムの実証試験を令和元年度から開始しました。

挿し木1年目からしっかり収穫できる新栽培法

この栽培システムは、挿し木苗を小さなポットで密植し、養液を点滴潅水（かんすい）する栽培法です。挿し木1年目から2kg（/株）ほどの収穫が得られ、2年目には、3.5kg以上（/株）の収量が見込めます。ポット栽培で土の代わりにヤシガラなどの資材を使うため、土壌病害などの解決につながります。また、1年目から収入が得られ、新規就農者や企業参入などにも向く栽培法として期待されています。今後、この栽培法を市原の産地に導入できるかを含め検討を進め、多くの生産者に導入いただけるよう情報提供していきます。





[写真左]挿し木の鉢底を温床で温める
[写真右]挿し木から6カ月後の様子

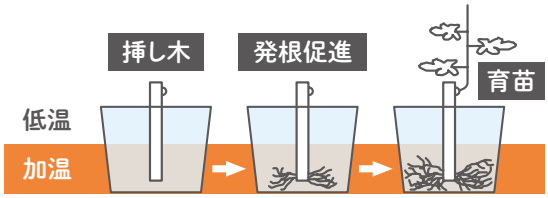


大川（おおかわ） 克哉（かつや） 先生
国立大学法人千葉大学
大学院園芸学研究院
食と緑の健康創成学講座講師（農学博士）

“大川先生のポイント解説”

この栽培法のポイントは、冬の挿し木時に、ポットの底面を温床で温め、根っこだけを先に生長させることにあります。先に発根させ、根の量をしっかり増やすことが、1年目からの収穫につながります。以降は、日射量に合わせて液肥をこまめに潅水し管理するだけなので、経験の少ない方でも簡単に管理でき、1,000㎡当たり4～5tの収穫が見込めます。

ぜひ、市原の産地でも試していただきたいですね。



挿し穂基部温度：22℃
培地：ロックウール粒状綿
本葉5～6枚時に24㎝ポットに定植

帰農塾生「梨ボランティアコース」を募集

市内の梨生産者支援や就農などを目指す人に、農業の知識や技術を養成する研修会の受講生を募集します。

内容・人数　梨栽培の講義と実習・先着20人
研修期間・場所　令和4年4月～令和6年3月の毎週火曜日午前9時～正午・農業センター（安須980）
費用　無料（道具など一部個人負担あり）
申込方法　3月18日㈮までに電話で申し込む。
申込・問合先　JA市原市経済部☎（36）5811



▲収穫時の研修の様子